

## 平成28年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立砂川小学校 )

## 1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・各教科、外国語活動での言語活動・コミュニケーション能力の育成 ・1人1回の授業公開	・児童の話す、聞く態度の変容 ・全国学テ及びジョイントプログラムの結果の比較
	家庭学習の習慣化	・自主学習の習慣化 ・自主学習の仕方、学年別系統の提示	・家庭学習時間 ・家で宿題や家庭学習はできていますか
	読書活動の充実	・「学習の場」としての図書室整備 ・50冊表彰 ・地域図書館の活用 ・朝の読書タイムの設定	・自分から進んで読書をしていますか ・家に帰ってからしたこと調べ
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の推進 ・きまり・約束遵守の徹底 ・体験活動の充実	・学校のきまりをしっかりと守っていますか ・PTA、地域行事に参加していますか
	異年齢集団活動の充実	・異年齢集団での児童会活動、学校行事の計画・実施	・年7回の児童会たてわり活動 ・全校遠足 ・秋の運動会
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	・基本的な生活習慣確立に向けての「生活がんばり週間」「生活アンケート」の実施・分析	・起床時刻、就寝時刻、睡眠時間、朝ご飯
	体力の向上	・朝マラソンの取組 ・体力テストの結果分析 ・運動部活動の参加状況	・自分から進んで体を動かしていますか ・運動部活動の参加状況及び体力テストの結果検証
独自の項目	小中一貫教育の推進	・中学生による読聞かせ ・吹奏楽のタペ ・オープンスクール	・小中合同研修会 ・小中合同主任会
	適切な児童理解・実態把握	・スマイル(校長)面談の実施	・学校は楽しいですか ・自分のことは好きですか
	情報発信の充実	・積極的なHPの更新	・学校は、各おたよりやHPで学校の様子を伝えていますか



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月6日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・全国学テは全市平均並み ・ジョイプロ6年生の算数で全市平均を2ポイント上回った。	・学習意欲の高まりは見られ、少しずつ結果に表れ始めている。	・研究教科である「算数科」を中心に学習形態や説明の仕方、話合いの仕方を工夫する。
・児童の家庭学習ができていている回答は89%、保護者は84%	・家庭学習と宿題の意識の違い。自ら学習を進めることを小学校生活で習慣化することが大切。	・「自学自習のすすめ」を個人懇談会等で伝えていく。 ・宿題の出し方、量について見直しを図る。
・進んで読書をしているという回答は、児童66%、保護者52%、教職員72%	・課題が残る。図書に触れる機会をさらに増やす取組が必要。国語科の関係図書を活用。	・教職員や図書ボランティアさんによる読聞かせや、図書館利用の機会を増やすなどの取組を進める。 ・より保護者への働きかけをする
・「ルールを守る」児童・保護者ともにできている割合が95% ・積極的にあいさつ運動を実施した	・高学年が中心に規範づくりを進め、低学年の手本となるように心がけている。	・細かなルールにまで目を向け、教職員から率先してきまりを守る姿を見せることが大切。
・縦割り集会、縦割り遠足、運動会の縦割り競技を児童会で企画し実行している	・児童会が企画し、6年生がリーダーとして活動を進めることができた。	・概ね満足できる成果も見られている。次の段階へステップアップするための工夫を検討する。
・長期休業明けに全学年、生活がんばり週間として自らの生活を振り返る。	・基本的な生活習慣が多数の児童に身に付いている。少数の課題の残る児童への働きかけが必要。	・課題をクリアしている児童の割合に満足することなく、少数ではあるが課題の残る児童への取組を推進する。
・「進んで体を動かす」の児童でできている割合は85%	・児童は積極的に部活動に参加し、体を動かす機会をもっている。	・さらに積極的な部活動への参加を呼び掛ける。 ・教員が休み時間等に児童と積極的に外で遊ぶ。
・夏季休業中に藤森中学校吹奏楽部による演奏会を開催 ・春季、夏季の2回、小中合同研修会を実施	・定期的に小中が連絡を取り合っている分掌もあるが、全体に広げるといって課題は残る。	・それぞれの主任がお互いに連絡を取り合って定期的に集まる機会を設けるべき。
・校長面談を高学年より順次実施している。	・高学年が学校の中心となり活動することをめざし、学校長の思いを高学年から伝えている。	・今後、中学年・低学年へと面談を進めていく。
・各学年、積極的にHPを更新 ・「学校の様子を伝える」の保護者でできている割合が88%	・各学年だけでなく、様々な行事や普段の様子を積極的にHPや学校だよりで伝えることができた	・息切れしないように、現在のペースで学校の様子を伝えていけるようにする。



学校関係者評価	
評価日	平成28年11月2日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・学力も向上に向かっているよう でうれしく思う。 ・本が好きになると熱中できる。 本が好きになるきっかけ作りをしてほしい。 ・子どもが興味のあるジャンルの本をそろえることができるかが大切。	・図書ボランティアさんの活動は積極的。これからも継続してもらいたい。 ・読書の楽しさを保護者にも伝えることが大切である。音読の宿題は親子が関わるよいきっかけづくりになると思う。学習内容についての親の理解にもつながるはずなので、家庭での音読の時間を大切にしてもらいたい。
・地域の行事にはたくさんの児童が参加しているが、割合でみると低くなっているのが不思議。 ・学校教育目標の中にある「高学年が低学年の良きお手本に」という意識が高学年に伝わっている。	・子どもたちの縦の関係はとても大切。上の子どもの下の子の面倒を見る。上の子が褒められているのを下の子が見る。このような図を地域の行事の中でも培っていけると思う。
・自分の良さが言えることが大人になっても大切なこと。 ・高学年を中心に積極的に運動に親しむ姿が見られうれしく思う。今後予定されている様々な大会で活躍する姿を楽しみにしている。	・部活動に地域の指導者が積極的にかかわっている。地域行事にも子どもたちが積極的に参加し、(区民運動会や体育振興会主催の行事など)今後も活躍してほしい。
・地域行事については、項目に例を挙げてみてはどうか。 ・自分のことを好きといえることが大切。何かのきっかけで自分の得意が見つかる。自分の得意が見つければ自信につながる。このことが大切だと思う。	・学校行事については、学校からの発信だけでなく、地域からの発信も大切。学校だよりを関係者だけでなく、地域の回覧板に載せて回してみてもどうか。 ・自尊心は子どもの有り様。その有り様の自分の良さを言えるような取組を今後も進めてほしいと思う。

# 平成28年度 学校評価実施報告書

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・各教科、外国語活動での言語活動・コミュニケーション能力の育成 ・1人1回の授業公開	・児童の話す、聞く態度の変容 ・ジョイントプログラムの結果の比較
	家庭学習の習慣化	・自主学習の習慣化 ・自主学習の仕方、学年別系統の提示 ・音読への意識づけ	・家庭学習時間 ・家で宿題や家庭学習はできていますか
	読書活動の充実	・「学習の場」としての図書室整備 ・100冊表彰 ・地域図書館の活用 ・朝の読書タイムの設定	・自分から進んで読書をしていますか ・家に帰ってからしたこと調べ
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の推進 ・きまり・約束遵守の徹底 ・体験活動の充実	・学校のきまりをしっかりと守っていますか ・PTA、地域行事に参加していますか
	異年齢集団活動の充実	・異年齢集団での児童会活動、学校行事の計画・実施 ・地域行事への参加の呼びかけ	・年7回の児童会たてわり活動 ・縦割り集会 ・学芸会・6年を送る会
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	・基本的な生活習慣確立に向けての「生活がばり週間」「生活アンケート」の実施・分析	・起床時刻、就寝時刻、睡眠時間、朝ご飯
	体力の向上	・朝マラソンの取組 ・泳力テストの結果分析 ・運動部活動の参加状況	・自分から進んで体をうごかしていますか ・運動部活動の参加状況及び泳力テストの結果検証
独自の項目	小中一貫教育の推進	・中学生による読聞かせ ・部活動体験 ・オープンスクール	・小中合同研修会 ・小中合同主任会
	適切な児童理解・実態把握	・スマイル(校長)面談の実施	・学校は楽しいですか ・自分のことは好きですか
	情報発信の充実	・積極的なHPの更新 ・積極的な学校だよりの発行	・学校は、各おたよりやHPで学校の様子を伝えていますか



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月2日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・ジョイントプログラムの結果については第3回とほぼ同値。 ・アンケート「授業がわかる」のポイントは1.8ポイントアップし成果が見られた。	・「授業がわかる」「友達と協力して学習を進める」の項目で、前期よりも児童の評価が高くなっており、成果が見られる。 ・「宿題や家庭学習をしっかりとする」の項目で前期に続いて高い評価値を得た。 ・保護者も高い意識をもって宿題を見てもらうことができています。	・児童の授業に対する意識も高まりが見られるので、教員の授業に対する取組を継続して進めていく。 ・JP等の分析を還元していく。 ・自主学習の進め方を学年ごと、また学校全体を見通して系統立てて取り組んでいく。
・家庭学習ができていない項目は児童が91%、保護者83%、教職員87%。	・児童・保護者・教職員とも数値が低く、まだまだ課題が残る。 ・低い評価値ではあるものの、保護者のptがUPしているのは成果と受け止められる。	・調べ学習等の機会を利用し、図書室を積極的に授業で活用していく。
・進んで読書をしている項目は児童が62%、保護者56%、教職員73%。	・児童・保護者・教職員とも数値が低く、まだまだ課題が残る。 ・低い評価値ではあるものの、保護者のptがUPしているのは成果と受け止められる。	・児童に指導する内容については、教職員(大人)も徹底して守ることが大切であり、共通認識を高めていく。
・「ルールを守る」の項目については、前期に引き続き高い評価を得ている。 ・PTA、地域行事に参加する項目は50%未満と低い。	・児童は落ち着いて学校生活を過ごしている。集団生活がしっかりと成り立っている。 ・地域行事への参加児童数は多いが、偏りがあるように見受けられる。	・児童に指導する内容については、教職員(大人)も徹底して守ることが大切であり、共通認識を高めていく。
・年間を通した縦割り活動で異年齢集団として活動することが児童に定着している。	・異年齢集団での活動が定着したことにより、高学年のリーダー性も伸ばすことができた。	・縦割り活動については学校としてしっかりと根付いている。マンネリ化しないように、新しい取組を並行して進めていきたい。
・長期休業明けに全学年、生活がばり週間として自らの生活を振り返る。	・基本的な生活習慣が多数の児童に身に付いている。少数の課題の残る児童への働きかけが必要である。	・生活アンケートの内容の精選、児童個々への働きかけを学校体制で今後も進めていく。
・高学年を中心に朝マラソンに年間を通して取り組んだ。 ・運動部活動への参加意識が非常に高い。	・運動部活動に属する児童が多く、活発に活動している。 ・2年連続支部駅伝優勝、大文字駅伝に出場。	・部活動ガイドラインにのっとり、運動部活動や長期休業中の陸上練習などのメニューを改善する必要がある。
・小中合同の部会を開き、教育活動の意識の統一をした。 ・小中合同で教科部会を実施し、次年度への確認をした。	・小中の教職員が話し合いをもつことで、共通して取り組める内容を検討できたことが成果。具体的な取組を進められていないことが課題である。	・小中連携主任を中心にそれぞれの部会を調整し、部会ごとに取組を進められるようにする。
・学校真によるスマイル面談を通して、より深い児童理解につなげた。	・全教職員で児童理解することができた。	・全学年、どのように面談を進めていくのかの計画が必要である。
・各学年、積極的にHPを更新。 ・「学校の様子を伝える」の保護者でできている割合が88%を維持している	・普段から積極的にHPを更新できている。 ・保護者からの評価では、まだ更新が少ないという声もある。伝える内容についても吟味が必要である。	・保護者からの評価では、まだ更新が少ないという声もある。伝える内容についても吟味が必要である。



## 学校名( 京都市立砂川小学校 )

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月16日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・学習面の項目で「授業がわかる」「友達と協力して学習を進める」の評価が高いことはよいことだが、それだけではなく、「人の話をしっかりと聞く」の項目での評価が高いことに驚いた。現代の社会の課題にもなっている問題であるのに、子どもたちがしっかりと意識できているのは素晴らしい。	・大人が人の目を見て話を聞かない、話をしない。家族での会話もどうなのであろうか。親子が食事中にしっかりと目を見て話をすることが大切。家庭で目を見て話す習慣がついていれば子どももしっかりと話を聞くことができる。 ・目を見て話ができない原因の一つがスマートフォン。子どもたちがどれくらい時間、機器に触れているのか調査も必要ではないか。
・地域の行事への参加のptが低い原因を考えてみたい。毎回行事にはたくさん子どもと保護者が見られる。学校の先生方にもたくさん参加してもらっているのが本当にありがたい。	・地域行事のマンネリ化は否めない。何らかの打開策は必要になってくるかもしれない。 ・地域の行事で子どもたちが活動する姿を地域と学校とが一緒に見ることが、教育活動にとってもプラスとなる。
・子どもたちが携帯ゲームやスマートフォンのゲームアプリを何時間しているのか気になる。今はテレビの時間というよりもゲームの時間に注目したい。 ・大文字駅伝への取組が子どもたちに根付いている。	・学校が実施するアンケートの項目の中に、スマートフォンの項目を入れて実態を把握しておく必要もあるのではないかと。 ・地域と一緒に大文字駅伝への取組を進めることを継続してほしい。
・学校の様子を伝えることは大切。学校だよりや学級だより、ホームページで学校の様子をしっかりと伝えてもらっている。 ・保護者の感じ方によって学校の様子が伝わっているか伝わっていないかの評価にずれ違いは生じている。	・学校が子どもたちの様子を発信することは保護者にとっても安心、信頼につながる。 ・教職員と地域の方々とのつながりが非常に強い。ほかの地域ではなかなか見られない。教職員と地域の方だけでなく、そこに子どもたちも入っている。この伝統をぜひ継続してほしい。

## 3 総括・次年度の課題

<p>・確かな学力の項目については、数値的な成果には表れていないが意識の向上が見られる。このことから、今年度の取組(主体的・協働的な学びに向かう授業改革)を継続することで、数値的成果に結び付けていく。</p> <p>・読書に関する課題が残る。児童がより本に親しめることができる取組を進めていく必要がある。保護者の意識も少しずつではあるが高まりが見られるので、学校だけではなく家庭への働きかけも含め、更に強力に推進したい。</p> <p>・豊かな心の項目については、よい結果が得られている。継続して取組を進めることで現状を維持するとともに、新しい取組も模索していきたい。</p> <p>・学校独自の取組として、挙げた項目の中でも、小中一貫の取組が来年度はポイントになってくる。5校が連絡を密にし、連携にまで高めるためにも、それぞれの部会で話し合い、それを吸い上げて5校の取組として推進する体制づくりを図りたい。</p>
--